

第5回御前崎市民公開講座 「救急蘇生とリウマチのはなし」

今回の御前崎市民公開講座は、みなさんが明日からすぐ役立てることができる救急蘇生のはなしを、本院の看護師と浜松医科大学救急医学講座の吉野先生にさせていただきます。救急蘇生と聞くと、どうしたらいいか？とっさに何ができるか？などと考えて、どきどきしてあせってしまいます。それに救急といっても、病気の人、けがの人、溺れた人、交通事故にあった人など色々あって、出会ったらとても困ってしまいます。今回の講演では、とにかく救急の患者さんに会ったらどうするべきかを覚えていただこうと思います。実際に人が倒れていたら、なるべく目をそむけて知らないふりをして通り過ぎることができる人なら困りませんが、どうしたのだろうか？どこか悪いのだろうか？と気になってしまう方（そうあなたです）はぜひこの講演を聴いていってください。

さあ、なんだか具合の悪い人がいたら、「大丈夫ですか？大丈夫ですか？」と呼びかけて意識が有るかどうかをみます。そして「息はしているのか」「心臓は動いているのか」を知りたいので、呼吸状態を観察したり、脈を取ったりします。「そうだ！たしかAEDという機械があったはずだが」でも操作がわからない！！もう恥も外聞もないので「誰かきて、誰かきて」と騒いで人を呼びます。そう、救急蘇生は特別な事ではないのですが、とっさに落ち着いて行なうには少しの知識と訓練が必要です。でも、一番大事な事は他の人を思いやる心だと思います。御前崎の人とはとにかくこの心はありますから、後は知識が必要です。明日から役立つ救急蘇生のはなしが聞けます。

2番目に関節リウマチの治療のことをお話します。私が2006年に本院へ着任して「リウマチは治る」という講演をしました。大勢の人が聞きにきてくださいました。それから3年以上が過ぎ、さらにリウマチの治療は進みました。2008年にアクテムラ・ヒュミラという注射剤が発売され、関節リウマチに使用できる注射剤（生物学的製剤）は4剤に増え、経口剤としてプロgrafという薬も使用できるようになりました。治療の道具はそろってきました。実際、これらの薬を使用して全く何ともなく普通の生活ができるし、他の人が見ても関節リウマチとは分からない患者さんもどんどん増えてきています。また全ての薬を中止して全く何ともなく過ごしている人もいます。しかし、関節リウマチという病気は確かに厄介です。特に10年も20年も30年も経過した長期間に渡るリウマチは関節の変形のみでなく、色々な合併症があり、一筋縄では治療がうまくいかない事も多いのは事実です。このような長期間苦しんでいる患者さんを元通りの姿に戻してあげられればいいのですが、医療はやはり魔法ではありません。しかし、このような患者さんでもそれ以上関節が壊れるのを抑える事はできますし、早期のリウマチ患者さんをほぼ正常な状態にすることは可能です。しかし、不幸にして関節が壊れて障害が残ってしまった患者さんに対しては、薬だけでなく、リハビリや装具、整形外科の手術療法などを通じて、より良い状態（日常生活を困らないで過ごす）にできます。

今回の市民公開講座はこのように少し盛りだくさんで市立御前崎総合病院の病院際に合わせて元気に活発に行ないます。

市立御前崎総合病院
病院長 大橋弘幸

同時開催（会場は御前崎総合病院 1階～2階）

9:00～12:00 第1回 市立御前崎総合病院 病院祭

9:00～16:00 コスモス摘み&コンサート（コンサートは10:00～10:30）